

教会短信

牧師 間瀬 善彦

「寄留者（外国人）や孤児の権利をゆがめてはならない。…あなたはエジプトで奴隷であったが、あなたの神、主が救い出してくださったことを思い起こしなさい」（申命記24:17～18）。

日本は外国人に対して冷たい国だ、と言われていました。そのことを実感したのは、ミャンマーから来て日本で働いている青年のためにアパートを探したときです。何軒かの不動産屋を回って聞いてみたところ、どの大家さんも外国人に部屋を貸すことは困るということでした。言葉の違いによるトラブルを恐れてのことだったのでしょう。

確かに、外国人であっても日本に住む限り、日本の法律に従ってもらわなければなりませんし、人に迷惑をかけるようなことは慎むべきことです。一部の外国人の犯罪が大々的に報道されると、外国人は皆犯罪を犯すという心理にとらわれてしまうのでしょうか。でも、真面目で、日本人びとのために貢献している外国人はたくさんいるはずです。外国人であるからと言って、国籍、肌の色、人種によって差別することは絶対にあってはなりません。

聖書では、「寄留者（外国人）」に対しては「孤児」「寡婦」と共に保護が定められています。「寄留者」というのは、何らかの理由で母国を離れイスラエルに滞在している外国人のことです。聖書にはそうした外国人の保護が命じられています。「穀物を刈り入れるとき、刈った束を畑に忘れても取りに戻ってはならないこと」、「オリーブの実を打ち落とすとき、取り忘れた枝はそのままにしておくこと」、「ぶどうの取り入れのとき、全部摘み取らず残しておくこと」などです。何と手厚つくも暖かい配慮なのではないでしょうか。それはすべて、寄留者（外国人）、孤児、寡婦のためでした。このような形でイスラエルに滞在し、弱い立場に立たされた人びとに対する愛が示されていました。言葉や文化の違う日本に滞在し、苦勞しながら日本の文化に溶け込もうと努力し、真面目に生活しようとしている外国の人たちのために、わたしたちはどのような配慮を表わしていけるでしょうか。

チャペルコンサートのご案内

- ・10月28日（日）
- ・14:00～15:15

教会バザーのご案内

- ・11月25日（日）
- ・12:30～14:30

神の恵み

「シャローム!!」。友人やクリスチャンの兄弟姉妹に便りを出す時、私は、学んだばかりのこの「シャローム」を使う。「シャローム」の意味は、「神の平和、平安」だと、「聖書を学ぶ会」で、牧師先生に教わった。

人間の欲には、富、名誉、地位、食欲、性欲といろいろある。すべて満たされたつもりでも、最後には必ず心に隙間風が吹く。何故??

一年前の春、この教会の礼拝に来て、神を求めていた私は、その頃泣いてばかりいた。富、名誉、称賛の後、病、絶望そして、苦労と苦難が波状攻撃でやって来た数年の日々であった。「一人じゃとても闘えません」と叫んでいた頃、この教会の「教会短信」に出会った。礼拝に行ってみよう、勇気がなくて、何ヶ月も経った。とうとう勇気をかき集め礼拝に出席した。オルガンの音色が美しく心に響き渡り、カサカサの心に降り注ぐ慈雨の様だった。その後、礼拝は私の命、生きるエネルギーとなった。聖書のみことば、祈り、オルガンの音色は私を優しく包み込み、まるで揺りかごに入れられ、優しく揺られている赤子のようである。

牧師先生のお説教は、哲学的で時に難解なこともあるが、気骨に溢れなかなか良い。礼拝で私は慰められ、力を与えられる。「あなたの横にはいつも神様がいて下さって、共に重荷を負って下さっていますよ」と。

苦難、絶望の日々に、よく口ずさんだ讚美歌552番。『わたしが悩むときも 日々力を与え あふれる恵みを主は 満たして下さいと 信じてわたしは今 すべてを主にゆだね 喜びに満たされて この日も過ごします』

今、私の日々は、この讚美歌その通りになっている。「ウソ!!」と言われるけど本当である。私は溢れる恵みをシャワーの様に受け、器からあふれこぼれる豊かな恵みに当惑している。何故心に隙間風が吹くのか? その訳は、心の扉を開き、神を迎えるのではなく、欲(サタン)を入れたからだ。「主の祈り」を学んで後、心にイエス・キリストを迎え入れ、聖書を学び、この教えを守り、神に従い生きていけるよう、朝夕、神に祈る、我が身に起こる苦難を「神のご計画」と全てを受け入れる。祈り、学び、感謝し、受け入れる。「全てを失っているじゃないか?」と言われる私。私も以前はそう思っていた。でも、勇気をもって主に従ってみるものだと思う。主イエス・キリストの父なる神様、恵み深い天の神様は、こんな私でさえも見落とさず、溢れすぎるほどの豊かな恵みを与えてくださる。全身全霊で「シャローム!!」の私。枯れて絶えてしまうかと思われた私。主イエス・キリストに出会い、再び元気一杯、心からコロコロ笑っている私。神様、ありがとう。アーメン。

Y. M

【教会歳時記】

2007年度 チャペル・コンサートと教会バザーへのお誘い

チャペルコンサート 10月28日(日)

去年のアンケートを読ませて頂き、感動と感謝を感じて下さった方が、大多数でありました。次年度への期待と再来を約束される励ましの文章もありました。

今年は、2004年度コンサートに出演して下さった小松澤恵さん(桐朋学園大学音楽学部で声楽を専攻され、東京バプテスト神学校音楽科マスターコースを卒業)。石川宣子さん(武蔵野音大ピアノ科専攻)、お二人共教会音楽の分野で大活躍の方です。例年のコールファーマー(男声コーラス)——海外にも演奏に招かれる名実共に実力のあるグループと、加藤大喬君(洗足音大生)のピアノ独演等をお招きして、荘厳にして、抒情溢れ、感動を呼び起こすコンサートにしたいと、企画者大張り切りであります。

「癒し」とか「癒す」と言う言葉がよく使われます。病気や心の苦しみなどをなおすこと、と説明されています。教会のコンサートは、まさにこの癒しであります。そして、神への「証し」であります。複雑多様な生活の中で、こんなオアシスに浸るようなひとときをお持ちになりませんか！ どうぞ、お出掛けください。



教会バザー 11月25日(日)

大きな教会、幼稚園を併設しているような、教会は、母の会などが中心になり、大規模で、豪華絢爛たる大バザールが開かれているところもありますが、当教会は小規模ながら、奉仕と言うことを第一義とした心暖まる交流の場を開きます。

教会員、近隣の有志の方々の献品を受け、衣類、日用品、食品、軽食・喫茶コーナーなど、小さいながらも充実しており、例年喜ばれております。人気食品などは、短時間で売り切れということが度々です。

昨年など、近くの方が高価な日用品・陶器類を多量に寄贈していただき、幾度も運搬に伺う経験もしました。正に感謝であり、交わりであり、支え合って生きる人の姿そのものであります。これこそ慈善バザールの姿であると思います。

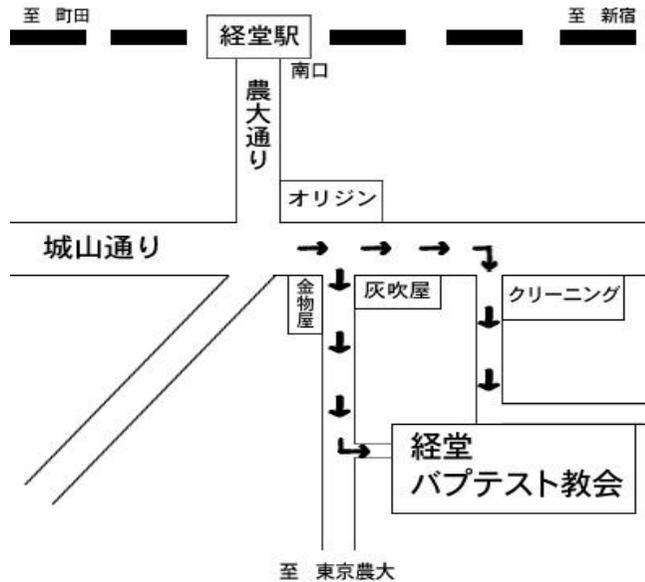
今年も担当者一同、思案を凝らし、腕によりをかけ、レイアウトに、献立の組み合わせに知恵を結集して、みなさまのご来場をお待ちしております。

昨年よりも、より喜んで頂けるバザーを目指して、反省を踏まえて、より前進できるよう、より良いものを提供できるよう企画に勤しんでおります。

こんな折に教会に足を運び、その交流の姿を味わってください。お待ちいたしております。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室（英会話）	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。